

低利用柑橘類を有効活用した養鶏飼料の開発

【活動グループの紹介】

静岡県立農業環境専門職大学は、日本で初めての農林業分野の専門職大学です。

参加グループの皆さんは畜産コースの3年生の皆さんで、大家畜と中小家畜に分かれて学ばれています。昨年度から本テーマで学チャレにエントリーされていて、2年生だった昨年度は主に畜舎の管理や鶏たちの飼育を担当し、3年生になった今年は結果の分析などの研究を担当しているとのこと。

昨年度の考察も生かし、産卵率や食味、黄身の色味等の向上を目指しています！

[農林環境専門職大学HP](#) ←学校の詳細はこちらから！

【取組の紹介】

畜産コースの皆さんは、養鶏の飼料高騰等を背景に、代替飼料を模索した結果、静岡の特産であるが廃棄されているみかんの皮やくず米などを活用することとし、昨年から取組を進められています。

昨年度は飼料の成分バランスをタンパク質が高くなるよう、設計したところ、産卵率や黄身の色味が落ちてしまったことから、今年は成分バランスを見直して、改善されるかを確認中とのこと。

飼料に使用するみかんの皮は、近隣の缶詰工場から出る廃棄物を原料にして、乳酸発酵させて活用しています。くず米に関しても、元先生の水田から出るくず米を活用したもので、飼料の7割は国産となっています。



Q1 畜産コースを選んだきっかけは？



動物が好きなことや、将来やりたい仕事につながっていることがきっかけです。ですが、メンバー全員実家の家業は畜産系ではありません。大学内では牛1頭と鶏30羽を飼育しており、交代で世話をしています。

畜産コース3年の
みなさんに聞きました！



おいしい卵を
つくります！

Q3 大変だったことはありますか？

畜舎での動物たちの管理が大変でした。365日休みがないうえ、授業との兼ね合いが難しかったです。また、2年生次には短大の1年生に教える必要もあったので、わかりやすく伝えられるよう工夫しました。



Q4 今後の目標はありますか？

産卵率を安定させることです。日照時間が産卵率に影響するので、ライトをつけるなど工夫を欠かさないようにしています。現時点で去年よりも産卵率は安定しており、週1で行うマルシェでも、卵はすぐ売り切れます。



Q2 飼料の具体的な原料、特徴は？

みかんの皮が4割、くず米が3割、残りの3割は大豆かすや牡蠣がらなどが含まれています。サイレージという乳酸発酵させた水分を多く含む飼料をあげており、乾燥した飼料よりも食いつきがいいです。



取材を終えて

学生さんとの交流のあと、鶏舎を見学させていただきました。鶏たちは思っていたよりも大きく、元気いっぱいに過ごしていました！卵を産む場所やタイミングもそれぞれ違うようで、お昼頃に産んだと思われる卵も見ることができました。若手職員も鶏を抱えさせてもらったのですが、生徒さんが抱えているときの方が鶏が落ち着いているように見えて、日頃から丁寧にお世話されているからこそその信頼関係を感じました。

とれた卵を「あぐたま」として学内マルシェで販売しているという話が印象的でした。ただ販売するだけではなく、チラシや普段の鶏の様子を撮影した動画を作成し、並んでいるお客さんにみてもらっているそうです。卵はすぐに売り切れてしまうらしく、学生の皆さんの努力や工夫が多くの人々に伝わっているのだと感じました。

地域の特産品であるみかんの皮を活用した養鶏飼料の開発によって、地域貢献や食品ロスの削減、昨今の飼料高騰への対応など、多くのメリットがあることを学ばせていただきました。

また、今回の交流会を通して、学生と講師との距離感が近く、明るく、楽しく講義や研究を行っていることが伝わってきました。

畜産コース3年生の皆さんご協力いただきありがとうございました。とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

